令和2年度学校施設の社会開放にあたっての考え方

1 社会開放にあたっての基本的な考え方

郡山市新型コロナウイルス等対策本部会議で示される「新型コロナウイルス感染症に係る市主催等イベント中止等及び市有施設の休館に関する指針（5月29日）（以下、「指針」という。）」に準拠する。

このため、社会開放にあたっては以下の事項を遵守し、実施するものとする。

- (1) 利用当日を含め、過去2週間以内に発熱(服薬等により解熱している状態を含む)、呼吸器症状(せき、くしゃみ等)がある方には利用の自粛をお願いする。
- (2) 感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方の利用はご遠慮いただく。
- (3) 屋内施設は100人以下かつ収容定員の半分以下、屋外施設は200人以下の利用とする。また、人と人との間隔を2m程度確保した利用をお願いする。
- (4) 利用人数が感染症拡大防止の観点による定員（屋内運動場面積÷4㎡以下）内に収まるかどうかを確認する。
- (5) 当日は、事前に各自検温して来校すること及び代表者に入り口において参加者全員の体調と体温の聴取を依頼し、体調不良又は37.5℃以上の方には利用をお断わりする。
- (6) 利用者はマスクの着用を必須とする。ただし、運動中は除く。
- (7) 屋内運動場利用の場合、利用者へは定期的な換気を依頼する。
- (8) 利用者は、手指消毒液等を持参することとし、屋内運動場使用后、場内の扉の取っ手、照明スイッチなど複数の方が触れる箇所を次亜塩素酸ナトリウム（ピューラックス等）により消毒する。
- (9) 社会開放中、利用団体代表者は、3密（密集、密接、密閉）を満たしていない状態を確認し、必要に応じ換気、空間確保等の対応を行う。

2 社会開放の取り扱い

「1 社会開放にあたっての基本的な考え方」の遵守事項を踏まえた貸し出しを行うこととし、具体例は以下のとおりとする。

(1) 合唱など大きな発声を伴う活動の利用について

次の条件を満たす場合に利用可とする。

- ①人と人との間隔を前後左右2m程度確保できる。
- ②対面発声を行わない。
- ③1時間ごとに活動を休止し、2方向の窓又はドアを開放して10分程度の換気を行う。

(2) 屋内運動場の利用について

利用者へ可能な限り接触する機会を減らす工夫に加え、以下の取り組みを求めた上で、利用可とする。

- ①運動中以外（指導者、準備、休憩、移動など）はマスクを着用する。
- ②大声や掛け声など飛沫感染の可能性を回避する。
- ③施設の窓、扉は開放して十分な換気を行いながら利用する。

3 クラスタ発生対策

- (1) 保健所が行うクラスタ発生対策を適切に実施できるよう、代表者に全参加者の氏名、住所と連絡先を把握するよう要請する。
- (2) 別添チラシ「新しい生活様式の実践例」を施設内の複数個所に掲示し、利用者へ啓発すること。

4 この考え方は、令和2年6月1日から施行し、適用期間は指針の適用期間とする。

5 この考え方は、指針の改正を踏まえ随時改正する。